

夏合宿

8月22³日~23³¹日

剣岳にて

2000年
信州大学山岳会

～ 目 次 ～

合宿の反省

1年	林 勝也	...	2
	宮西 堅司	...	4
	佐藤	...	6
10 2年	矢野 航	...	8
	中村 圭一	...	9
	野川 謙介	...	10
3年	横山 勝丘	...	11
	梶原 恵	...	12
	横山 輝生	...	13
	松 峯 林太郎	...	14
4年	岸本 俊朗	...	15
	日高 弘次	...	16
	大木 信介	...	17
係の反省	装 備	...	18
	食 料	...	19
	会 計・渉外	...	20
	記 録	...	21
	気 象	...	22

2000年夏台宿

8/23(水) ~ 8/31(木)
(8+1)

8/23(水)

5:30	7:30	Aパーティー 8:20	→	2:20
Box出発	扇沢発	Bパーティー 8:15		2:35
		黒部ダム発		内蔵助平

こんな重さ初めて体験した。数十メートル歩けば石に座るのを繰り返した。
でも途中からは調子かできてきた。明日もがんばるぞ〜 宮西

8/24(木)

Aパーティー 5:40	9:00	12:00	↓	合流	2:30	5:30
Bパーティー 5:40	8:05	10:40	↑	合流		
内蔵助平	ハシゴ谷 乗越	真砂沢ロッジ		長次郎谷出合		熊ノ岩

今日も当然のごとくつかれました。いや-それにしても重かった。でも
真砂沢ロッジから見た 剣岳はきれいだったな。 佐藤

8/25(金)

大木・宮西	8:30	9:00	10:30	10:55
中央大ルート	岩小屋	1日目開始	2日目開始	登山終了
松崎・野川	8:15	10:45	11:15	
Fix隊	岩小屋 Fix開始	Fix終了	BC	

8/26(土)

日高隊	魚津高	6:30 → 8:30	松崎・梶原隊	京大 6:00 → 8:10
	京大	10:40 → 11:50		中央大 9:00 → 10:45
	剣橋会	13:20 → 16:00		剣橋会 11:30 → 14:15
横山 ² 隊	京大	7:00 → 9:00	野川・中村隊	剣橋会 6:25 → 8:50
+ 矢野	剣橋会	10:15 → 12:30		魚津高 10:00 → 12:05
	魚津高	13:30 → 15:10		中央大 13:10 → 15:05
岸本・林隊	中央大	6:20 → 8:30		
	RCC	9:45 → 13:40		

剣岳本峰南壁隊 4:00 起床
 7:50 取付
 10:00 登山開始
 12:00 A3付近で
 14:00 山頂
 ルナを失う

岸本・宮西・松壽隊 RCC 6:00 → 9:30 日高・横山(勝) 中大 5:50 → 7:30
 久留米 10:40 → 15:05 熊ノ岩 8:50 → 12:00

8/28 (月)

松壽隊 魚津高 8:30 → 10:40 岸本隊 剣稜会 8:35 → 11:24
 熊ノ岩 12:15 → 15:05 魚津高 12:15 → 14:00

横山・日高隊 RCC 8:40 → 11:30 横山・野川隊 京大 8:50 → 10:50
 (勝) 中央大 12:10 → 14:00 (輝) RCC 12:00 → 15:00

8/29 (火)

チンネ隊 3:00 起床 6:00 取付

稜線 { 横山(勝)隊
 7:00 取付 13:40 チンネの豆頭
 麦谷隊
 7:00 取付 13:05 チンネの豆頭

中央 チムニ - { 日高隊
 9:15 取付 10:30 中央バンド 11:15 チンネの豆頭

* ツバリ(ジャンケン)で負けた負け犬隊(梶原・野川・林 + maybe 岸本)の記録はなし

8/30 (水)

4:00 起床
 10:30 ハシゴ谷 乗越
 15:30 黒部川 出合い
 17:10 黒部ダム

夏合宿を終えて 林 勝也

今回の合宿での反省点は

- 。体力不足
- 。要領の悪さ

である。準備の段階から遅れをとり、アブローチ、登はん、合宿中の生活でも手際が悪く、皆に迷惑をかけてしまった。その全てにおいて上記の二項が根底にあると思う。今後もし山岳会の一員として、また来年上級生としてやっていくためにも、次の合宿までにトレーニングをつみ、また、常に先の事を考えつつ行動できるようにしていきたい。

感想としては、佐藤の事故が本当に残念だった。他にも数件間近で事故が起こり、改めて岩の怖さを感じた。しかしこの後一年は気を引き締めていくことができたいと思う。

あと心残りなのはチンネに行か
なかったこと、本峰南壁A2を
登れなかったことだが、これは
来年の楽しみを取っておきたい
と思う。

john[®]



おいしいよ。

夏合宿を終えて

宮西堅司(会一)

まず初めに、率直な感想として、この合宿でやったように、正式な山岳会一年は、13人の新人の一人にすぎないが、これから、山岳会の最終目標である冬合宿成功のため、重要な一人である。また、今では4人になった一年の中心になんて引っぱって行くぐらいの気持ちで頑張ろうと思っている。反省として、一年全員の危険に對する意識の甘さに尽きると思う。準備不足、集中力の欠如などである。その他にも大きくはながあるが、今季でと比べれば、よくなつてきつつあると思う。最後に、今回は天候に恵まれ、7ルで行動でき、A,B,C,D 左一ス、くすの岩、チンネとこの木以上ない良い思いが、最高の気分です。また、

毎度の事ですが、先輩方の強さに
は頭が下がるばかりです。
ありがとうございます。



「 夏合宿の反省

佐ト

僕の一番の反省点は事故のことです。セ
と最悪の結果も容易に想像できる。ので
事柄は非常に重要です。事故当時、僕の
モチベーションは2日間歩き続けたいとあり、
高かったです。しかし、注意力、集中力がな
たのか、周りから見るとどう感じるかもしれませ
んが、自分ではいつもどりの注意力、集中力で
登っていたつもりです。あの大岩に手をか
け、力を少し入れたとき「浮き石だ」とわかりま
した。これは危険だと思い、岩をもとの位置
に戻そうと思い、10秒くらいふんばった後、
かつま、岩は下に落ちていきました。事故後、
原因をいろいろ考えていました。ただ、注意力、集
中力が散漫では終わらせたくはない事故でし
た。僕の中で今一番反省しているものを考え
たとき、山に対する経験の浅さが考えられま
す。事故の原因は、もちろんこれと断定する
のではなく複数あることは承知してはいますが、
その一つとして経験が足りないことが挙げ
られると思うのです。経験をj得るには山に

「登る以外の方法はありません。ケガが全治した後は山をたくさん登ろうと思います。ちょっとした決心です。事故がはたして今後、経験として生かすかは今後の行重かしたいです。ぜひ、あの事故も今後につなげたいと思うています。また最後になりましたが、山岳会のみならず多大な迷惑と心配をかけました。僕は申しわけない気持ちと感謝の気持ちでいっぱいです。すみませんでした。また、ありがとうございます。ありがとうございました。」

夏合宿の感想

佐十

実質2日しか参加してない僕にとっては夏合宿ははまりってどんなもんか全然わかりません。ただ、ボツカの2日はけっこうツラかったです。本当、これじゃあただの牛だよ。しかも目的と世についてまあこれから、でとまに事故りし、荷物だけ運ばされて着いたらハイ用済み。みたいを感じて、ああーくやし山から降りてきて、剣の写真を見てニコニコしてるハヤスの顔。ああーくやし、くやし。

・ 复合宿の反省 矢野 航

- 腰. ヒザ. 肩. 背中. 特ニ 腰ニ 痛メタ。
→ トレーニング不足, トレーニングす。
- 全体を見渡せなかつた。
(具体的に) ココ拾い等の天場の Xニテナスキ
天場ニの仕事ニシテ 受動的態度。
→ 天場ニカクカシクシクニ 自分ノ意志ニシテ
積極的ニ。
・ 歩き方ニ 登ル中ニ 自分ノ事ニ大判
考メタ。
→ 勝手に行動に移スル。質問
意見トシテ 上級生ニシテ 上
級生ニシテ 観察ニシテ。

- 装備が不完全。→ ビナX4 及び 脱出用ハーケニ
→ 最も反省すべき問題。全体ノモチベーションも
かわる。下界ニシテ 山ノ意識ニシテ 高めニシテ
甘ニシテ。

- その他。
 - ・ 歩荷中ノ十十ラ
→ ビオフェルミンニシテ 服用スル。
 - ・ 夜ノ「こる」ノ言ニシテ
→ 胃腸薬(ガッツ?)ニシテ 服用スル。
 - ・ 鼻. ノドノ不調
→ カゼノ薬ニシテ 服用スル。
 - ・ 違フ上級生カ 違フニシテ 言フ場合。
→ 頭痛薬ニシテ 服用スル。
 - ・ そんなニシテ 薬ニシテ 買フ場合。
→ 林ニシテ 頼ンゴ 買フ。

复合宿ノ感想

歩荷ノ事ニシテ 全クノ本音ニシテ → That's 复合宿。

夏合宿反省・感想

中村圭一

反省

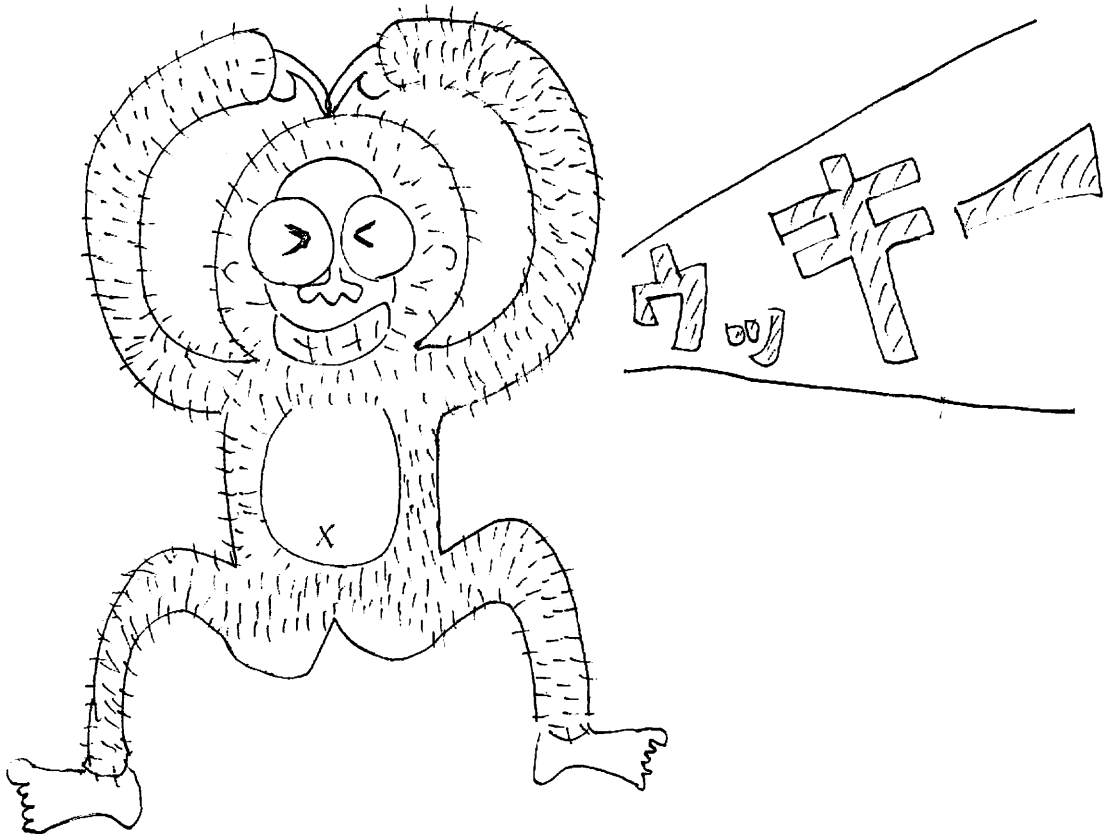
反省だけなら猿でもできる。まさにその通りです。

精進します。

感想

今年の一年生は本当についている。全日程フル稼働、八つ峰・チンネ・熊の岩を登れて本当に充実した合宿だったと思う。

自分自身としては、登はんは出来たけど2年としての仕事が出来ていなかったなので、精進します。



夏合宿の反省と感想

重い、重い荷物にも自分の技術、経馬不足にも泣かされた合宿であったと思う。そして登山という自然を相手にする遊びにつきまとう事故の恐ろしさを再確認した合宿であったとも思う。やはり今まで事故そのものを体験したことがなかった私達にとって、今回の事故は深い意味のあるものだった。再発を防ぐためにもより一層の努力が不可欠である。

私個人として学ぶべきことが山ほど見つけた。まず第一に自分の弱さ。他人への甘えや自分への妥協は自分の心体の疲労が増すと共に大きくなる。もっと体力を。これに関連する話になるが自分に対する厳しさをしっかり持て常に自己啓発をしてゆく。僕はどちらかというところ、のんびり屋で小々(?)抜けている人間なので逆にリラックスなど考えずに常に自分を追い立てていた方が自分にとってプラスであると考え。最後に二年生としてのプライドである。上にも下にも遠慮せず素直に、そしてかけがいのない友人として付きあってゆきたい。一年生は今の上には冬は厳しい。各自トレーニングを積むように。冬山に甘えは通用しない。

重い荷物は辛いただけでなく、人に考えさせる力もあると思った

野川 吾郎

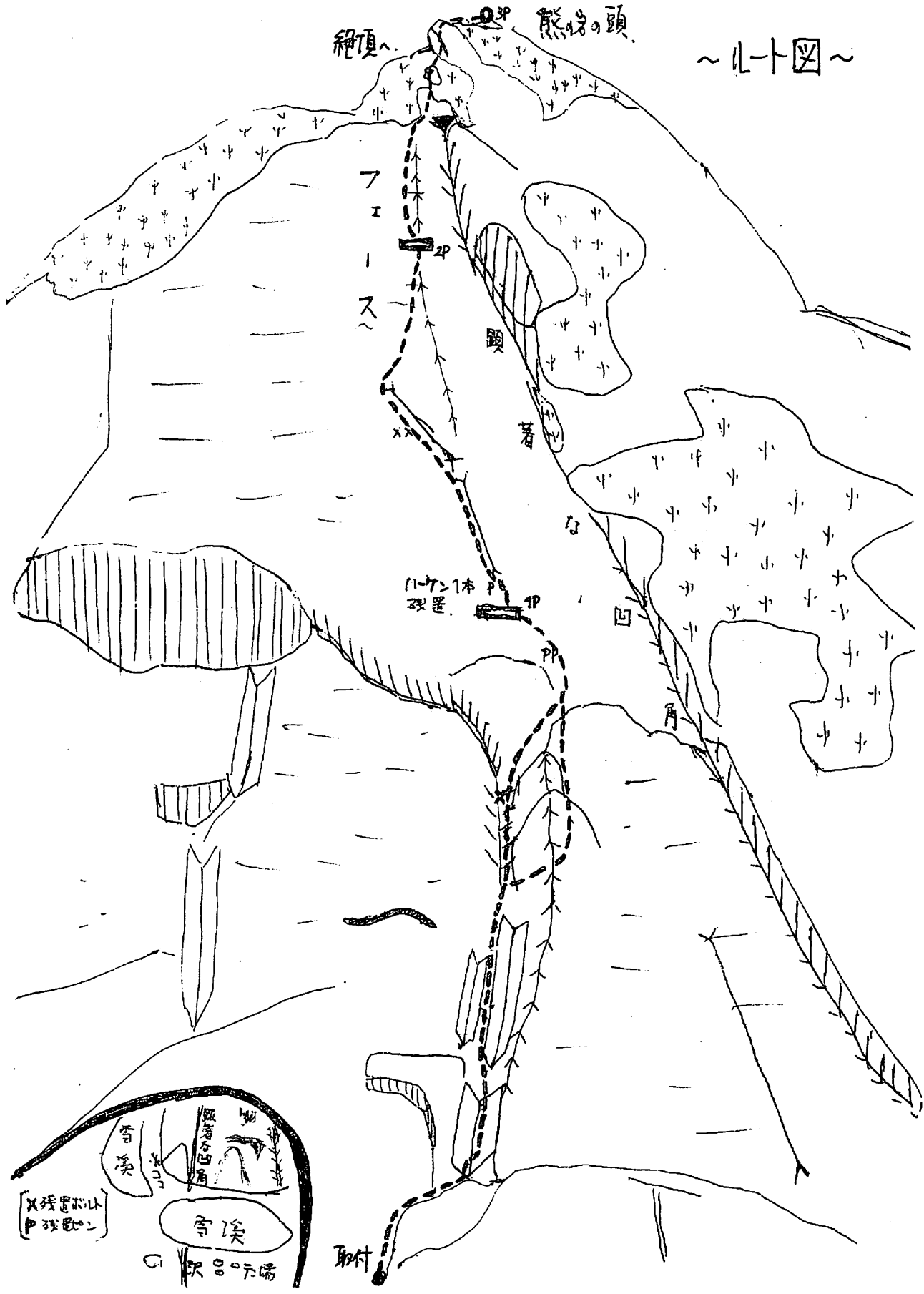
夏合宿の反省と感想

9856024H 横山 勝丘

天候にも恵まれ、充実した行動となった。これだけ行動して、さらに行く場所のバリエーションも増えたのは、やはり会として、さらには個人的にも実力がアップしている証拠だろう。その一方で事故があった。実力の上昇している時が恐いというのは前々からも言われていることである。その恐さは、今回 大事に至らなかつたから良かったものの、充分に言認識すべきだと思う。今回、自分が切に感じたのは、事故後の対応に関して、何と自分達が認識不足だったのかということである。まず考えなければいけないのは、事故が起これ、その下に報告した時点で、多大な迷惑を多くの人にかけしてしまうという事実を認識することである。ともあれ、実力を向上させて、自分達のやりたい事をやるというのは良いことである。ふつ、つい冷静さを欠いたり、調子に乗って行動したりしない事である。特に上級生が下を見るときはそうである。また、そういう風になりそうになったら、周囲はたしなめたりする必要がある。これを書いたのは皆に自分に向けて言いたい。個人的には熊の岩とチネは最高だった。皆で熊の岩には行きましょ。1年生は体力はますますだが、まだ要体力。あとは自分から動く。2年生は体力、体力、体力。+α 余裕。これは体力が直結している。そして合宿に対する意識を高めましょ。3年生はまだ貫平不足。精進あるのみ。4年生はお疲れ様でした。また4年生だけで相談しているが、3年生とも相談してほしい。皆さん、これからリレー層 気を引き締めていましょ。

横山勝丘さんと日高弘次さんによる熊ノ岩開拓のルート図 →
及びトホ。(次面)

絶頂へ 熊袋の頭



アイース

11ヶ所
破置

頭

着

回

角

取付

音

破置跡
取付

音

取付

残置跡
破置

×リット。

・アア-41分、B・Cから登ってB・Cに戻るまでクランクでOK、適度なグレート
・チツアロセントの練習になる、楽園に行ける→幸せ。

~~~~~  
B・Cから見て熊の岩の左辺を形成する顕著なカンテを登るルートである。  
雪渓を登ると顕著な凹角が見えてくる。その左のカンテを登るが、取付はもう一つの凹角  
である。ここまでB・Cは1分。おぼろいも、お水物として大丈夫(しゅため♡)。

[1目 III + 35m]

岩の段を一段上がり、コーナーを登る。その上は自由にルートがとれる。頭上のリングポイントのある凹角から  
が普通だが、右のカンテも物々も楽しい。すじ上で合流し、残置ヒオンズ本道まで3.4mの所  
に大テラスあり。ここはカンテに沿って走ったクランクの真下にあたる。残置ヒオンズ本道。ヒオンズ  
でピレ点を作る。このピレ点は非常に岩が硬く、井ノボルトも豊富で快適そのものである。この  
終了点にナイフグレートの下向きを1本残置した。

[2目 IV 50m]

真上のクランクを登る。1目と比べると岩は格段にもろくなる。クランクを左上げにするとヒオンズポイントの  
残置が2本ある。ここを越えると傾斜はゆるくなる。が、岩は更にもろくなる。カバボルトは豊富  
だが、もろく、「カバカバカバ」である。また、支点はとれそうではない。ランアウトに注意。  
50mギリギリで顕著な凹角のすぐ左のカンテラスにつく。残置はないのでヒオンズ本道はヒオンズ  
ヒオンズとする。なお、途中リングポイントあり。残置は一切ないので、思いっきり。

[3目 IV 30m]

最初の10mはカンテの左側を登る。所々もろい箇所があるが2目よりはマシである。簡単。ブッシュ  
につき当たったら、右の顕著な凹角側に右上ぎみでトラバースし、岩を一段こえる。またブッ  
シュとなり、2~3m進むとハンクや木のカンテを乗り越す。少しこいか、チツアロセントが  
しっかり決まるので、確実にきめていけば問題はない。ここを越すと、3mほどブッシュになり、夢に  
まで見た楽園におどり出る。楽園は本当に楽園である。非常に静かで平坦な所  
だ。景色も良い。長次郎谷左側と鉾岳。そして大峰フェース群。独立状態である。最近では飛  
らくほんと人が来ないだろうが(救助隊の入り)。昔の超ヒロなアゼンツを見つけたらして  
て面白い。下降は右側を下りるが、雪渓を歩かず、熊の岩の腰を通って降りれる。上から  
B・Cまで25分ほど。問題はない。

このルートは残置があることから考えると以前にも登らしているようだ。しかし、残置の種類は非  
常に少なく、また、いつの時代のもかわからないようなものしかない。自分で支点をつくらなくていいし、  
岩もカタカタしているような所も多いのでなかなかアロケーションを決めづらい。しか  
し、それだけにチツアロセントを駆使してのクライミングが楽しめる。なんちゃって「駆使」だらう。  
アアア。兎にも角にも、ウォーミングアップや午後から始める場合、そして何処か楽園に行くと  
いうだけでこのルートは行く価値がある!と信じてい。くれぐれも支点は確実に!!!  
さあ、あなたも是非!!♡

[使用ギア]

チツアロセント、フレンズ4~5個(中肉サイズ)、ヒオンズ6枚ほど(ピレ点用)

他、一般的なギア+d

※残置は1目終了点のナイフグレート1枚。

熊の岩は大峰の方から眺めると×ヤクヤカッこいっすねー。



## 夏合宿の反省と感想

今回はサブリーダーと言うことで合宿に臨んだわけだが、ただ普通に参加するのは違った。ちょっとした判断においても、あらゆる状況を考えなくてはならない。来年、四年生として会を運営して行くうえで良い勉強になった。

去年、おとしと夏合宿は天候に恵まれず、ほとんど登れなかった訳だが、今年は沈殿なしのフル稼働だった。おかげで各学年それぞれの進歩があったのではないだろうか。これを基に冬につなげてゆきたい。

1年生は今回、本チャンがどういうものかを知ったはずだ。まだ楽しいとは言えないだろうが、その怖さは十二分に分かったはずだ。

2年生は岩の技術は別として、二年として不足しているものをもっとよく考えてもらいたい。頑張れ!!

3年生はもっと来年を意識して山に行こう。

4年生は会のために徹して頂いてどうもありがとうございます。

そして何より、事故の存在がある。

僕らは事故を知らない世代である。自分が1年だった頃の上級生の雰囲気には、もっと怖さがあった。事故の怖さを体感している分、それに対する厳しさを持っていたような気がする。自分達にはそれが足りない。上級生は冬に向けて、会のムードを変えていくべきだろう。

最後に今回の事故でご迷惑を掛けた皆様に厚くお礼を申し上げて終わりとします。

3年 梶原 恵

## 夏合宿の反省と感想

反省は佐藤の事故につきるだろう。おとしし去年と登れたい年が続き、上級生全体に「本でもなく登らなければ」というおせりみたいなものがあった。そのため、1年生の渡労等を考慮できず、事故に至った。おとし全体を見る事で、防げた事故であつたかもしれない。H-A-部員は合宿中、常に事故の心配、会全体のおしん気に敏感であるべきである。

そして、負つた事はどんどん発言するべきだ。H-A-1大では、とても合宿の運営は無理だし、H-A-部員はそのためにも、今日のような怖い事故というのは、二本から冬に向けて、各自の課題になるものだと思った。事故が起きた事をしっかりと認識する事がとても大事だと思ふ。

感想：去年とほう、こがおり、あはれな天候だった。

毎日登れて、1年生は本キャンを十分知る事ができただろうし、自分もいい経験ができたように思う。千本にも行けたし、夏合宿の楽しさというのを始めて経験できた。

又、本キャンの楽しさと同時に、恐さ、厳しさも一年生も、上級生もよく感じた合宿だっただろう。最後に、

事故処理にあつた上級生はご苦労さまでした。

この事を機に、良い山岳会の形を作りたい。

OB、学生部、富山県警、真砂沢ロッシの方、ありがとうございました。

横山 輝生

3年目にして初めて天気に恵まれた夏合宿となった。事故のことを別にして考えると、沈殿することなく、内容は非常に濃いものだったと思う。6峰フェース群の各ルートの登攀、熊の岩の登攀。そして、チンネに行くチャンスも与えられた。ようやく、剣岳の岩場の地理的概念が分かり始めたような気がする。岩と雪の殿堂と言われる訳が分かる。また、普段ほとんどザイルを組まない奴等といっしょに登攀できたことも本当に有意義だったと思う。それだけ前期に山に行ってなかったということだが、

しかし、こういった充実感とともに反省の多い合宿ではなかったかと思う。まず、事故に対する認識の低さがある。事故後のベースの雰囲気などはそれを示しているのではないか。自分も含めて下界での事故後の処理について冷静に判断することができなかったことはよい教訓となった。一年生を連れていっている合宿である以上、上級生は一年生に対して責任を持つべきだと思う。脱出用ハーケンを持たせないでの登攀。一年生に対する指示の少なさ。リーダー会のダーリー会化。自分も含めてリーダーに依存しすぎのような気がする。これらのことが事故に直結する訳ではないが、この状態で冬山に向かうことは危険だと思う。何かやる前に考える余裕のあるのが上級生だと思う。

一年生は、登攀の楽しさと事故の怖さを知ったと思う。今の自分に満足することなく、上級生の言うことを謙虚に聞いてほしい。二年生は、力不足だと思う。二年という学年がどういうものかもう一度考え直してほしい。今の状態では、冬へ向けそして次の学年へ進むとき困る。自分も含めた3年生は、リーダー会などを通じて、自分の意見を今以上出したい。そして、3年同士の意思疎通を普段から行うことがよいと思う。そして、下級生に伝えられる形での技術向上が必要だと思う。自分のFIX 技術然り。テント内での生活技術などにしても一年のころより厳しさがなくなってきたように思う。4年生の言うことをただ聞くのではなく、よい部分を素直に吸収していかしていきたい。

今回の合宿を通じて、搬出法や救急法の講習が真剣に考えられ、さまざまな反省が自分の中で出て来たことは、本当によかったと思う。

最後に、佐藤の怪我が大事に至らなくてよかった。

## 夏合宿を振り返って

岸本 俊朗

今年の夏合宿は天候に恵まれ登攀の実績だけで見ると雪溪の崩壊により1本も登れなかった一昨年、天候に恵まれず1日しか登攀のできなかった昨年に比べれば実に充実の内容であった。それだけに悔やまれるのは佐藤の事故であり、無念としか言いようがない。一番無念なのは佐藤本人だろう。悔しさを乗り越え復活を遂げて欲しい。

ただ、合宿で登る八峰周辺の諸ルートは別段難しいものではなく今回のように条件がそろえばある程度の結果の出るのは当然であり、我々に力があつたからではない事を強調しておく。現状に慢心せずに精進して欲しい。

今回の合宿を通じてわかつたのはの会としてのパートナーシップにかいていうことだった。これはそのままリーダーとしての個人の反省となるわけだが、この構築が夏以降の課題になるであろうことはある程度予想していた事であった。日常からの、リーダーである自分の統率に不足があつたことは否めないが、一人がふんばってどうなることでもなく今後の各自の更なる主体的な活動を期待したい。会が自分に何をしてくれるかではなく自分は会に何ができるのか、そして自分のおかれた学年の役割とは何か、これをよく考え、行動して欲しい。

秋は短い。冬は目の前である。

8月29日。  
手=済に行けない  
4人は五山峰のルテ  
7ルテ  
シヤホ=玉玉とほしは……。



夏合宿'2000

日高 弘次

年は天気も良く、この3年間で最も登山した夏合宿となった。みなさんお疲れ。反省として、

個人としても、上級生の雰囲気としても、セリセリしたもの無かった。その雰囲気が事故の原因だとも思う。自分も含め、上級生の厳しさをあの事故は防げたと思う。起こったものはしょうがない。

あの程度で済んだのは、運が良かった。今回の事故を教訓として、うしろ意識を高めよう。

全体の反省として、1年はもっと動け。仕事は助で見るもの。B.C.でもものんびりしてる暇はない。2年は、体カ欄は置いて(足リム)、もっと動いて、1年をもっと使え。3年は、履しすぎるんじゃないかという時がある。もう1歩ふみ込んで、もっと厳しく良いと思う。

事故はあったが、他は恵まれた合宿だった。1年からは、このを経験として、どんどん山へ行ってくれ。

佐藤はけがの完治に務めること。

夏合宿

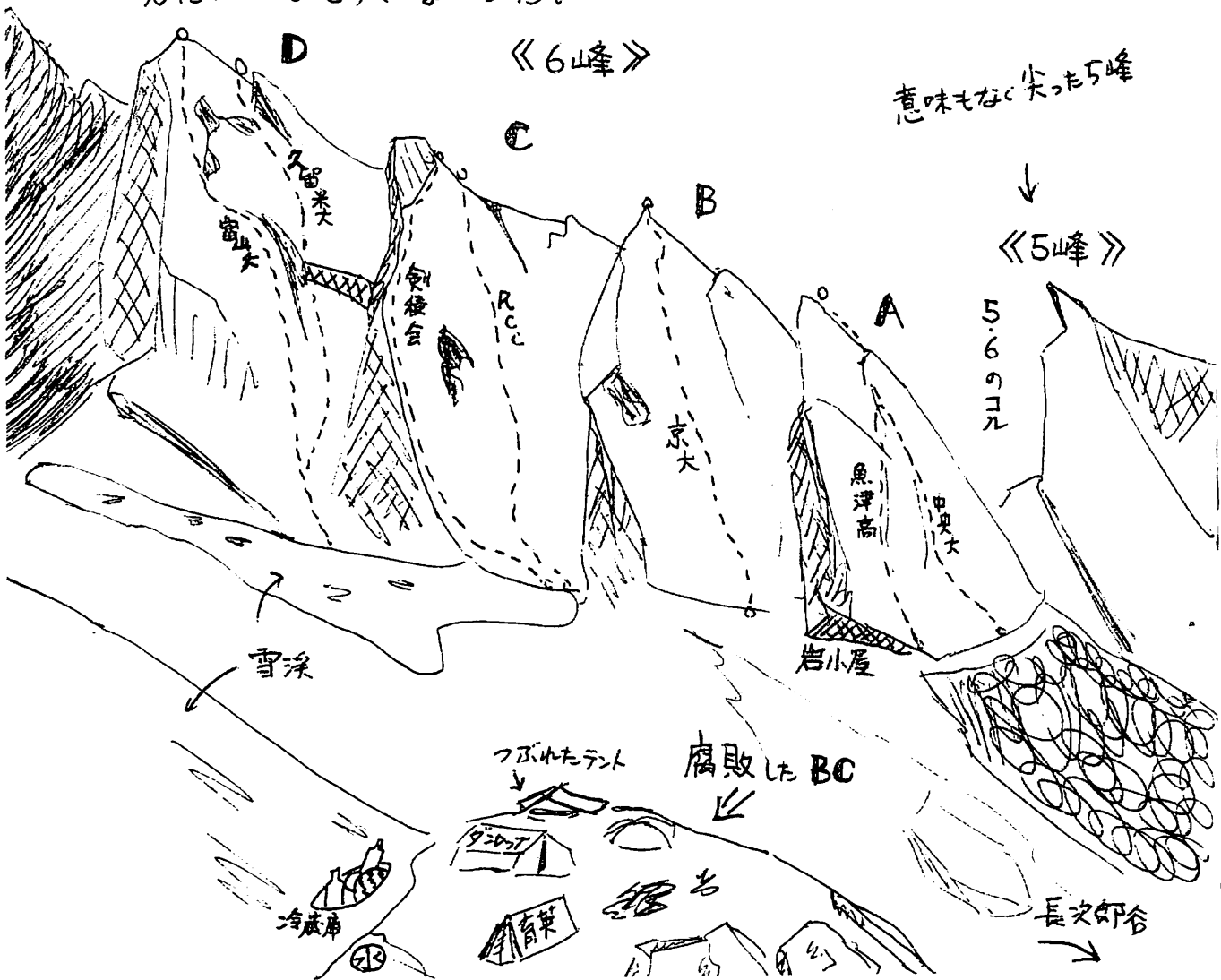
4年 大木 信介



人力の無さと、己力の無力、認識の甘さ、色々と感じました。事故報告書に詳しく反省、改善点などが述べられているので、ここでは省かせていただきます。みしからず。

偶然では経験できない(もちろん偶然とは言えんのだが...) 事故は私にとって勉強になりました。4年といっても「4年生」としては当然一年目であり、「まだまだだのう...」と初心に戻りました。4年として自信を持つのはまだまだ早いっすね。

それにして、新人合宿といい、夏合宿といい、究極の雑用係になりつつある。い、いかん。このままでは、このペースでは冬合宿も途中で下山するハメになりそう。4年の初め頃は「リベロ大木 BOND」などと調子に乗っていたんだが...。こりゃまいった。



## 装備系の反省と感想

### 生活具

- 白ガス 約 6.5L 消費
- メタ 31.5本 //
- ローソク 5.5本 //
- 電池 48本 //

### 登山具

- シュリンゲ 7本 残置
- ハーケン 岸本さんのおかげで<sup>ガス</sup>十となりました

初めての装備係で色々と不備があったのはいなめない。もうし訳ありません。やはり夏合宿の装備は松本がよい。7月中には仕事を終わらせるつもりでやってほしい。またこの係はついつい登山具ばかりに頭がいってしまいかちだが、生活具もまた大切。けっこう道具使うよ。コレ。テントは育葉の方が軽くなるかも(!?)

野子川

## エッセン反省

- ・米は人数の半分を2合、もう半分を1.5合にする。
- ・朝食は、キムチ系を廃止し、ラーメンに代わる何かを冬までに探す。
- ・差し入れは早めに手をつける。
- ・登はん日のレーションは少なめでもいい。カロリーメイトは使える。
- ・アイスは何日あっても良い。
- ・次の日の行動を考えて、汁を少なめにする。1人2杯まで。





# 会計渉外の反省

文責：松寄林太郎

収支内訳：(レシート、領収書による)

収入

\* 合宿費 242,000円

合計 242,000円

支出

\* 食費 89,910円

\* 装備費 67,168円

\* 交通費 39,750円

合計 196,828円

残高

\*  $242,000円 - 196,828円 = 45,172円$

実際の残高

\* 43,117円

使途不明金

\* 2,055円 (これ多すぎ。お釣の管理はしっかりと)

: 扇沢までの車一台の交通費は1,500円 (往復)

: 山岳救助本部に事前に登山道の状況などを聞いておくことはよいことだ。

: 会計は常に残高を把握しておくこと。

: 日高さんの車酷使してしまいましたが、効率的な輸送ができました。ここに厚くお礼申し上げます。

# 記録に関する反省と感想

宮西堅司(会)

今まで通り書けていたと思う。

しかし、一人一人書き方が微妙に違うので、読みにくかった。

登壇者の記録は、リーダーの名前だけでなく、メンバーすべての名前と書いた方が良いと思う。また、

ピッチごとの記録はいらないが、

何ピッチかかかたぐらいは記入すべきと思う。あとは感想の記入だが、

みんなも、と自主的に書きまこう。

## 気象の反省

- 夏宿ではバンナーに於てB.C.に戻る時間が異なるので、早く帰ったものに天気図を畫いてもらう。  
そのため指定のテントに天気図セットを常置しておくのがいいだろう。(唯これも早く分る場所へ)

## 医療の反省

- 天気図同様、早くは取出せるように決めた場所に置いておくのがいい。
- 医療缶はB.C.に置き、故のため、各自が外傷系の救急セットを持ち歩くようにしたい。

横山 knock.

in every action...

there is **meaning**

in every conflict...

there is **growth**

in every moment of  
doubt...

remember to

**Believe** in yourself.

表紙: 矢野

編集: 野川

SAC 信州大学  
山岳会